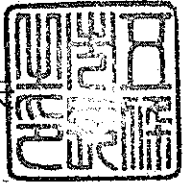


平成19年5月25日

国土交通省道路局長 殿



五條市長 吉野晴夫



中期的な計画の作成にあたっての意見書

1, 今後の道路整備の重点化・優先度の高い政策について。

五條市は旧街道の集まるところに出来た町であり、昔から道と街づくりには深い関連がある地域でありました。このことから地域の道路整備に対するニーズは高く、多様な道路整備を求める声が増えています。そのため、道路特定財源については、道路整備の促進・維持管理に必要な不可欠な財源として全額道路整備に充当することを以前から強く要望してきた経緯があります。

そのような中、本市にとって大変重要であります「京奈和自動車道・五條道路」が昨年6月に全線供用開始されましたこと、また、長年の懸案であった地域高規格道路「五條新宮道路」の五條市域が、本年3月30日に調査区間に指定されましたことについては、やっと私ども地方にも国の道路整備の順番が回ってきたと、心より感謝申し上げているところであります。

さて、本市は平成17年9月に西吉野・大塔二村と合併し、世界遺産に指定された「紀伊山地の霊場と参詣道」の玄関口となり、紀伊半島中央部の交流拠点として、また県南和地域の中核都市として、活力ある住みよいまちづくりを積極的に推進しております。なかでも、都市基盤整備の基本となる道路交通網の充実については、国に特に積極的な取り組みを、お願いしているところであります。

また、本市は奈良県が目指しております「なら・半日交通圏道路網構想」の幹線道路3路線が位置しており、国道310号・168号は大阪から十津川・新宮に至る広域幹線道路として中心的役割を果たしております。

国道168号は、地域高規格道路「五條新宮道路」として高規格幹線道路網を補完するとともに、内陸県奈良にとっては、太平洋への道を開く道路として、また、国道310号は、長年の願いである新金剛トンネル整備で紀南から京阪神都市圏への最短ルートとなりうる重要道路であります。

本道路及びトンネル整備が実現すれば、奈良県南和地域と京阪神地域及び和歌山県新宮地域との連携が強化され、過疎化が進む沿線市町村の産業振興、活性化対策をはじめとする定住化の為の基盤確立に大きな効果をもたらすものと確信しているところであります。

次に、本市の中心部を貫く国道24号は、京都と和歌山を結ぶ重要な幹線道路であり、市内においては最も交通量の多い大動脈であります。また沿線の地域住民にとりましては欠くことのできない日常生活道路でもあります。しかし、こうした重要道路にもかかわらず道路環境は不十分であり、本陣交差点から二見2丁目までの約1,350mは、道幅が約8m程度と狭く歩道も無い状況であるため歩行者の安全な通行が困難で極めて危険な状況でありました。

このため市は平成14年から「国道24号沿線整備検討会」及び「勉強会」を設置し国・県・市・警察等関係機関と地元自治会が協力して取り組みを行ってまいりました。その結果この拡幅整備(歩道設置等)事業については直轄での事業が決まり、平成16年度に本陣交差点から市役所下までの1工区(約200M)について事業化され、平成18年度には続く2工区も事業化される等、順調に進めていただいているところであります。市では国とともに用地交渉を積極的に進めるとともに残る区間の早期整備完了を国にお願いしているところであります。

以上のとおり、五條市では「京奈和自動車道」・「五條新宮道路」及び国道310号・国道24号整備を、まちづくりの基本となる幹線道路整備で最優先課題と考えています。また、これら幹線道路より更に広域的な高規格道路計画として位置づけられている第二国土軸「東海南海連絡道」の実現についても市として重要事項と考えているところであります。

これらの幹線道路整備は、このたび閣議決定されました「道路特定財源の見直しに関する具体策」の中で検討される、ニーズ・重点化・効率化のどれをとっても優先度の高い課題と認識しております。これらのことから、今後の具体的道路整備を示す中期的計画の作成には、是非これらの幹線整備を引き続き計画的に進めていただけますようお願い申し上げます。